

元 気いっぱい ふるさと夏祭り!!

十八夜祭り



7月18日、鏡町の初夏を彩る十八夜祭が鏡町の中心商店街一帯で行われ、地元郷土芸能、歌謡ショーなどに約15,000人以上の観客で歩行者天国は大賑わいでした。

十八夜祭は、数百年の歴史を持つ夏祭りです。近くにある子安観音は、子授け、安産、子育てなどの御利益があることで有名です。また、十八夜の名物の造り物が会場周辺に13基展示されました。祭りのメインである総踊りには約600人が参加し、氷川高校・八代農業高校の生徒など若者パワーにあふれていました。

やつしろ・よかところ探し

7月1日、やつしろハーモニーホールを主会場に、「地域とともにこころは熊日です」が「新しいまち 魅



▲活発な意見を交換するパネリスト

力・元気・夢 in 八代」をテーマに開催されました。

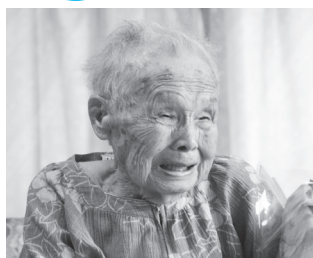
八代市鏡町出身のジャーナリスト魚住昭氏による「日本の行方、そして地域の在り方」についての講演後、「やつしろいいところ探し」のテーマでパネルディスカッションが行われました。坂田市長をはじめ、地元経済界、観光、農業など、さまざまな分野から7名がパネリストとして参加し、「八代市は宣伝が下手」、「産業観光に力を入れたらどうか」、「農業を応援してほしい」、「八代港をもっと良くしてほしい」などの意見が出されました。

最後に、坂田市長が「慢心せず足下をしっかりと見つめ八代市の発展のため全力で取り組みたい」と力強く今後の抱負を語りました。

Town Topics

~まちのわだい~

1 100歳おめでとうございます



▲田上キクエさん (千反町)
明治39年8月6日生

千反町で娘さんと二人暮らしでドリアンが大好き。フィリピンに移住され、マニラ麻の事業は成功したが、戦争で全てを無くしたとのこと。しかし、「今が一番幸せだ」と話されました。



▲荒木モモさん (袋町)
明治39年8月12日生

長生きの秘訣は「夫婦が互いに愛し合うこと。そうすればお互い幸せになれる」と話されました。市長から「これからも元気に長生きしてください」と声をかけられると、「もったいなあ」と喜ばれていました。

七 七夕綱張りに願いをかける

8月6日、坂本町中谷の木々子地区において七夕綱張りが、地元老人会(谷口重喜会長)の皆さんによって、集落を流れる中谷川に張り渡されました。



この七夕綱張りは、ワラジや扇子、藁玉などを飾りつけたもので、無病息災や家内安全祈願した行事です。会長の谷口さんは「おかげさまで、災害もなく、地区住民も健康で長生きしており、老人会の行事として、今後も残してい



きたい。」と語られました。このような行事は、今では県内でも数箇所にしかなかったとのこと。

山 林火災に備えろ！

熊本県防災ヘリ「ひばり」



7月30日、東陽町の河俣山村広場で、八代広域鏡消防署と、八代市消防団東陽方面隊合同による山林火災を想定した延焼防止訓練が実施されました。

真夏の太陽が照りつける中、消防団の小型ポンプの中継による消火訓練、また、熊本県防災ヘリ「ひばり」による上空からの散水訓練など、本番さながらの訓練が行われました。

東陽町は、面積の86%を山林が占める中山間地であり、火災発生時は、山林への延焼により大惨事を招くことが予想されます。この訓練を通じ、陸・空のより一層の連携強化が必要と再認識させられました。

子 どもたちの安全のために

防犯パトロール用ベスト・帽子贈呈式



八代警察署、氷川警察署の両防犯協会では、団体登録を行っている団体に防犯グッズを配布し、安全で効率的な防犯活動を支援しており、7月24日、市長応接室で『日置町・子どもを守る会』や、『片野川子どもを守る会』、鏡町防犯パトロール隊などに防犯グッズの贈呈がありました。

『日置町・子どもを守る会』代表の坂口さんは、「これからも地域の子どものために頑張りたい」と抱負を語りました。

ぼ くとたちが育てた、夏野菜

金剛小学校3年生・JAやつしろ女性部



▲ピーマンの種の多さに、ビックリ！

7月18日、金剛小学校で自分たちで育てた夏野菜の調理と試食会が行われました。この野菜は、今年の5月にJAやつしろ金剛支所女性部の皆さんが苗（なす・きゅうり・おくら・ピーマン・ゴーヤ等）を鉢植えし、子どもたちに育てさせたものです。「これが夏野菜ですよ」と並べるだけでなく、苗から育てさせ、収穫の喜びと同時に苦手な野菜のおいしい食べ方を体験する。『栽培、収穫、そして調理』この三拍子で野菜のすばらしさを分かってもらうのが目的だそうです。子どもたちも、「なすはぼくのなすだよ。形はヘンだけどおいしいね」と、嬉しそうに食べていました。



▲育てた野菜を食べるのは緊張します

市 庁舎の「使いやすさ」を検証



▲車椅子を使ってカウンターの高さなどをチェック

熊本県が進める「くまもとユニバーサルデザイン（UD）事業」の一環として、7月19日、市施設の管理にたずさわ

る職員24名が、市庁舎の「使いやすさ」を検証しました。

この日は、3班に分かれ、実際に車椅子を使ったり、視覚障害者や高齢者の視点で、窓口やトイレ、通路などの施設をチェックし、各種表示の見やすさ、カウンターの高さ、スロープの勾配など、ふだん健常者ではわかりにくい問題点の調査を行いました。これから、各支所や出先施設でもこのUD評価を行い、今後の施設整備に生かしていく予定です。